

生活経営における生涯設計とファミリーリスクマネジメント（第2報）
 一世帯属性別にみたファミリーリスクに対する認識・準備—
 ○東珠実* 荒深美和子** 尾島恭子** 山口久子*（*国政学大 **金沢学大）

【目的】本研究の目的は、第1報で述べた通り、生涯設計における短期的・中期的・長期的イベントに伴うファミリーリスクに対する認識と準備の実態を把握することを通して、今後の生活経営に必要なリスクマネジメントのあり方を追求しようとするものである。第1報では、現代のファミリーリスクマネジメントの実態について全体的な特徴をとらえたが、本報では、これらを世帯属性別に分析し、世帯のもつ多様な特性がファミリーリスクに対する認識や準備にどのような影響を及ぼすかを明らかにしようとした。

【方法】本研究は、第1報で述べた通り、1996年7月に実施した質問紙法による実態調査の結果を分析したものである。本報では、調査結果について、世帯主の年齢別、世帯主の職業別、配偶者の就労形態別、居住地域別、住宅所有形態別、住宅ローンの有無別、所得水準別、生活の価値観別にカテゴリー間のカイ自乗検定を実施し、それぞれの世帯属性がファミリーリスクに対する認識や準備に及ぼす影響の程度を比較・考察した。

【結果】分析結果より、世帯属性別にファミリーリスクに対する認識や準備に及ぼす影響がかなり異なることが理解された。とくに所得水準や生活の価値観は、リスクに対する認識に大きな影響を及ぼすが、その準備にはあまり影響しないことが明らかとなった。他方、世帯主の年齢や住宅ローンの有無などは、リスクに対する認識にはあまり関与しないが、その準備について大きな影響を及ぼすことが推察された。さらにそれぞれの世帯属性にみられるカテゴリーの違いが、生涯のさまざまなイベントを契機に、家族・個人の諸資源にかかわるリスクとどのように関係するかについて把握することができた。